

伊藤 聡 (新潟県・新潟市) 2

渡邊美枝子 (山梨県・富士吉田市) 3

写真自分史づくり④ 4

「俳句と身体」⑤ 俳人 黒岩徳将 16

喜怒哀楽

「喜怒哀楽」は、文芸を楽しむ方々の活力の源を目指し(株)ミュージック・コーポレーション喜怒哀楽書房が隔月発行している情報誌です。

10-11
Vol.112

にいがた
食の歳時記
～へぎそば～



10月にもなると、そろそろ新蕎麦の季節だなと思う方もおられるだろう。「新蕎麦」は秋の季語にもなっている。蕎麦と言えば、三大蕎麦や深大寺そばだろうか。実は、新潟県でも有名なお蕎麦があって、「へぎそば」という。へぎ(木片)と呼ばれる四角い木の器に、お蕎麦を一口ずつ丸めて盛り付けられた(手繰る、という)ものを言い、お蕎麦のつなぎには「布海苔」が使われている。つるつるとしたのど越しが特徴。薬味にはわさびでなくからしを添えるところもあるという。魚沼地方発祥のこのお蕎麦。なかなか他では味わえないと思う。いつか、新潟に来られたなら、一度は味わっていただきたい一品である。

温古知新 64

「菜根譚」36

急ではありませんが、残すところあと2回となった「温古知新」。すべて紹介しきれませんが、少しでも暮らしの役に立てて頂ければ幸いです。

群疑に因りて独見を阻むこと母れ。己の意に任せて人の言を廃すること母れ。小恵を私して大体を傷ること母れ。公論を借りてもって私情を快くすること母れ。

(多くの人からの疑いに影響され、自分の意見を捨ててはいけない。自分の意見に拘って、他からの意見を排除してはいけない。小さな幸せを自分だけのものにしてしようとして、大局を損じてはいけない。一般の意見を利用して、自分だけ良い思いをしてはいけない。)

自分だけ良ければよいのではなく、みんなが良くなること、拘らずに柔軟に意見を受け入れることが出来れば良い世の中になるはず。

善人、未だ急に親しむこと能わずば、宜しく預め揚ぐべからず。恐らくは讒譖の奸を来かん。悪人、未だ軽がるしく去ること能わずば、宜しく先ず発くべからず。恐らくは媒蘖の禍いを招かん。

(善人と思われる人でも、本当に親しい間

柄でなければ、それを褒め称えてはいけません。そうでないと、陰口で仲違いをさせて利益を得ようとする輩が現れるだろう。悪人と思っても、すぐに離れることがなければ、悪事を早々に暴くべきではない。そのようなことをしてしまえば、反動でより大きな被害を受けることになるだろう。)

青天白日の節義は、暗室屋漏の中自り培い來たる。旋乾転坤の経綸は、臨深履薄の処自り操り出だす。

(晴れ渡った空のような節操と道義は、暗く湿った部屋の中で育って来る。国を一新するような大改革を目指し、国を統治する方策は、慎重で冷静な工夫からなるものである。)

思い立ってすぐ行動することも大切ですが、思い付きだけでなく、準備して思慮することも、大きなことを成し遂げるには重要なのです。

こんな世の中だからこそ、他人を思いやつて平和な世の中になるよう、思いやりと広い視野を持って過ごしたいものですね。

(古川久美子)

伊藤 聡様

『面白原稿本になる。』

(新潟県・新潟市)

今年7月に『面白原稿本になる。』を出版した、新潟県立リウマチセンター副院長の伊藤聡さまにお話をお聞きしました。

Q 出版しようと思った経緯からお聞きします

職業は内科医です。医学に関する原稿のやり取りの中で、私が院内ロックコンサートを行っていることが医学雑誌『新薬と臨牀』さんの編集部のあるところとなり、はるばる東京から取材にきていただき「高齢者はロックがお好き?」いまだき院内コンサートの記事が掲載されました。『新薬と臨牀』さんには、「こいつは面白そうな奴だ」と思ってもらったようで、いわゆる「面白原稿シリーズ」を次々と掲載していただくことになりました。知り合いの医師からは、「これは面白い。本にしたらどうですか?」といった声もありま



▲24時間戦う内科医 伊藤聡さま

した。その頃、私が理事をさせていただいている新潟日独協会が40周年記念誌を発行することになり、記事を執筆しました。当時の渡辺会長から喜怒哀楽書房さんのことをお聞きし、お、これは自分の本を出版できるかもしれない、と思い、メールをしたところ、ぜひにということになり、若い頃からの原稿も含め本にさせていただくことになりました。

Q 本を出されるまではいかがでしたか

今まで出版した原稿の出版元に転載の許可を取るのが大変でした。もともと面白い原稿もありましたが、出版社がすでに倒産し許諾を得られず、掲載できないものもありました。どうしても掲載したい若いころの記事が、紙のコピーは残っているのに、コンピューターはすでに何台も変更になっており、電子媒体による記録が残っていないものが数本ありました。それを喜怒哀楽書房さんに一から入力していただき、感謝しています。このことで、「紙媒体のものの方が電子媒体よりも確実に保存される」と実感しました。写真も同様ですね。

Q 本を手にした時はいかがでしたか

それはそれは、嬉しかったです。30代頃からの自分の書いた原稿が還暦の年に出版されたわけで、自分の半生を振り返ることになりました。修業時代は本当につらかったのですが、よくここまで頑張ったと自分を誉めたくになりました。表紙のデザインや紙質などは、

▲趣味のバイク、バンド活動、ドイツ語など、硬軟取り混ぜたまさに『面白原稿本になる。』は、送料・税込2870円（B5版124P）。興味を持たれた方は、当社までお問い合わせください。



実際の仕上がりがどうなるかのサンプルとともに、多数の選択肢をご提案いただき、その都度家内や娘に相談して決めました。家族にも感謝です。

Q 今夢中になっていること

バイク、バンド、水泳、ジョギング、ポイスカウト、バードウォッチング、英語、ドイツ語などは相変わらず続けていますが、新型コロナウイルスの影響で活動がかなり制限されてしまいました。バンドはリズムギターとボーカルのをやっていますが、先日コントラバスのエレキ版、アップライトベースを衝動にかられ購入してしまいました！NHKのFM番組、「夜のプレイリスト」で、コント赤信号の渡辺正行さんが、カラヤンの「アダージョ」を紹介していたのです。これにはしびれました。その後YouTubeでジャズの「アンスクエアダンス」に遭遇し、これもやってみたい!と思っています。「アンスクエアダンス」は、子供の頃、兄の買ってきた「テイクファイブ」の45回転ドーナッツ版（懐かしい!）のB

面に入っていて、お気に入りだったのです。

Q 今現在など

おかげさまで、医師同士が選ぶ「ベストドクターズ」に、2014年頃から連続して選出いただいています。また、今年は桜の花出版の「国民が選ぶ名医ランキング」にも掲載いただきました。レストランのミシュランガイドではないですが、どうやって選出するのでしよう?私の専門分野でも、自分が患者になったときに本当に診てほしいと思うような、全国の懇意にしている先生方が掲載されており、出版社の方々が非常によく調査されていると感じるとともに、その中に選んでもらったと大変嬉しく思いました。医師の修業時代は本当に厳しい生活で、収入も低く、苦勞が多かったです。還暦を迎えようやく若い頃の苦勞が実ったと感激しています。

★本業での華やかな経歴が物語るように、アグレッシブに第一線でガンガン働きながら、人命救助により筑波大学学長表彰をされたり、ポイスカウト救急講習会講師の実績により新潟県知事表彰されたりと、とにかく生き様が濃く、エネルギーが豊富。当直明けからのスイムやランの際に、原稿のネタがひらめいたりするのだとか。お忙しいであろうに、メールの返信は女子高生並の素早さで、ご本人いわく「脊髄反射の男」。即断即決、闘う内科医の一冊、ご一読の価値あります。(木戸敦子)

渡邊美枝子様

『歌集 回転木馬』

(山梨県・富士吉田市)

今年一月、平成二十四年から令和元年まで八年間の三六八首を収録した第二歌集『回転木馬』を上梓された渡邊美枝子さまにお話をお聞きしました。

Q 出版しようと思った経緯からお聞きします

主宰の強い勧めもありましたが、私自身も体力・気力のあるうちでなければとの思いもありました。迷いはあつたものの、妻であり、母であり、祖母でもある己の心を偽らず、そのままに詠んだ歌は、まぎれもなく私自身であると思つたとき、生きた証でもある歌集をと、心が決まりました。

元号も令和に変わった昨年は、ちょうど七回目の年女であり、結婚生活もダイヤモンド婚(六十年)を迎えるという節目の年。何よりも、迷っている背を押してくれたのは、嫁の「自分のお金は自分のために使ってください」



▲車の運転も山登りも現役の渡邊美枝子さま

の一言でした。

Q 本を出されるまではいかがでしたか

第二歌集でしたので、段取りはだいたいわかっていましたし、御社のことも承知しておりましたので、特別大変なことはありませんでした。ただ、私事ではありますが、主人が昨年末に腰椎の手術をし、その後、軽い脑梗塞を起こしたと歌集出版・贈呈のための発送とが重なり、家の改築もしておりましたので、一人で孤軍奮闘の思いでした。幸い主人も自分のことは自分でできるまでに回復し、今は私の歌の種を提供してくれています(笑)。

Q 本を手にした時はいかがでしたか

人間はいつ何が起るかわからないので、やはり歌集は出していてよかつたと思えました。平凡な主婦の歌ばかりですが、子どもや孫たちに残せまうし、御社の行き届いた配慮のおかげで、私らしい歌集になったと感謝しております。第一歌集『春は歩まむ』の表紙は、今は高校三年生になった(當時は小学四年生)孫の渡邊陽那乃が、今回の第二歌集『回転木馬』の表紙は小学四年生の孫の千葉夏美が描いてくれたこともいい記念となり、二人とも喜んでくれました。

Q 今夢中になっていること

自家菜園での野菜をピクルスにしたり、冷凍にしたりと大忙しです。今は栗の季節になりましたので、栗のお強を炊き、友人・知人に配っています。



▲孫の千葉夏美さんの手による表紙画



▲孫の渡邊陽那乃さんの手による表紙画

もう一つはあまり自慢するようなことではないのですが、暇をみては手縫いで雑巾を縫い、障がい者施設に寄付しています。大変喜んでいただいております、少しでも人の役に立てているかと思つと楽しいです。コロナが収まつたら施設にボランティアに行く予定です。まだ手も動きまますし目も見えます。おかげさまで口も達者です。ささやかでも人の役に立つように心がけ、残された日々を全うしたいと思つております。そして、私の人生の締め括りとして、もう一度御社にご厄介になることを目ざし頑張りたいと思つています。

『歌集 回転木馬』より

楽の音に回る木馬と幼子の頬にふふふと春の風吹く
炭に焼く秋刀魚うましと胸を張る六歳
すでに日本人なり

主婦といふ荷物たまには下ろせとぞ惣菜売場に並ぶコロツケ
「厨房に入らず」と育ちわが留守に焦げ付かせたる鍋は二つ目
ブラウスを買ひしと知らぬ夫に出す刺身ひと皿本まぐろなり
見ゆるもの見えなきものを声に詠む
「富士」の十年わが命とも

■帯文より

「八十四歳。胸にペースメーカーを抱く障害の身ながら、作者の歌はあくまでも明るく、前向きである。

自助の心と共に、めぐりの自然や家族、社会から宇宙へと視野を広げる。健やかに、ありのままに老境を詠んで、高齢社会を生きる同世代への力強いエールとなった。」
— 川崎勝信(「富士」主宰)

★三度ほどお会いしたが、その都度「これ帰りの電車ですべていきなさい」と炊いたばかりのお強やおにぎり、漬物を持たせてくれた。洋装でも和装でもキリリとして、主婦の矜持と細やかな心配りが自然で実に格好がいい。お話をした際の感覚も歌も若く、時折りいたずらっ子のようなユーモアと可愛らしさを見せる。機業を営む住み込みの女工さんもある大家族の中で育ち、嫁いでは介護や子育てをしながら、撚糸や染物、呉服業と懸命に働いてきたという。すべてにおいて全力投球、真つ向勝負、だから清々しい。歌集のどこを開いても日常の尊さが輝いている。
(木戸敦子)

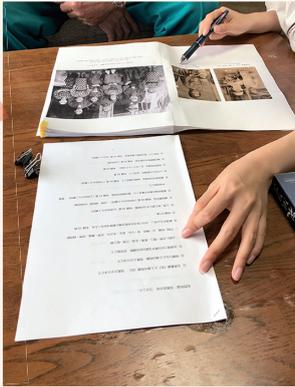


写真自分史づくり

今回は、写真自分史制作の肝となる、レイアウト(どの写真を、どのページに、どのように並べるか)の様子をお伝えしました。今回は、祖父本人による校正をご紹介します。

～スタッフ松野が祖父の写真自分史の手伝いをします～

● 次回は、写真自分史の製本工程についてお伝えします、お楽しみに！



アルバムの内容を簡易的に印刷した校正用紙と原稿の内容を照らし合わせます。間違えていたら、校正用紙の該当箇所に二重線を引き、赤ペンで正しい文を書きます。

2. 写真とキャプション(写真の説明文)が合っているか確認する。



【校正記号について】
訂正内容の説明を短縮するために、記号を使います。
例)「改行を意味する記号ですが、お客様が校正する場合は、校正記号を使う必要はございません。」「ここで改行」などの指示を書いていただければ、その通りに訂正いたします！



3. 写真の大きさを確認する。
目立たせたい写真は「大きく」、撮影日や空白など不要な部分があれば、「切り取り」の指示を入れます。



アルバムを制作しているのは、スタッフ松野の祖父・利雄。御年95になります。最近では曾孫の遊び場を作るために、庭の整備をはじめたとのこと。

1. 校正とは？
印刷物の字句や内容、文字の並び方、色彩を修正すること。赤いペンで修正内容を書きます。



【写真自分史の体裁について】
作る本のサイズはどのくらいか、開き具合はどうか、などをあらかじめ把握しておく、写真や文字の大きさの指示を入れやすくなります。
写真自分史は、縦21cm、横20cmのほぼ正方形サイズ。表紙は堅く頑丈なハードカバーで、傷つきにくいツヤPP(ポリプロピレン)加工がされています。また、紙を貼り合わせる製本なので見開きの中央が平らになり(レイフラット)、180度平らに本を開くことができます。綴じ込み部分が隠れないので、見開きで写真を使用することも可能です。

句集への道

(第四回)

一木戸敦子が自分の句集づくりにチャレンジ!



▲校正・お客様担当の古川の手により組版

4回目の今回は、本のレイアウトやタイトル等についてです。

◆本のサイズ、レイアウト決定!

さて、何とか120句に絞ったものの(と言いますが、たいした句もなく絞るというよりは捻り出すといった感じ)、ダブリがあつたり、移動があつたりと、たかだか120句なのに組版担当の古川には訂正の手間をかけてしまった。さらにもう少し粘れば、収録に値するマシな句ができるのでは? などという悪あがき。やはり夏が好きなのか内訳は春24句、夏40句、秋24句、冬・新年が32句。本のサイズは文庫本より大きく、しかしスリムに、レイアウトは1頁に2句の天地揃え、字は小さめでいこう、見えないように!(…ってじゃあいったい何のための本なのか!?)。

◆タイトルと装丁に苦慮

そして、これで終わりではなく、装丁はどうする? タイトルは? と、まだまだ決めな

毎であれば少しは楽だろうという、単なるのめしこき(新濁弁で怠け者のこと)。故に極力シンプルに、が大原則。タイトルもこの時節および、もともとがコロナで動きが取れずに始めた企画なので「不要不急」または「不要普及」なんてどうだろうか!?

お客様には本としてまとめる意義を説きお勧めしているのに、自分の本は作ったことがない。だから「お客様もする句集といふものを我もしてみむとてするなり」という、観念と一大決心だから「一念発起」ならぬ「一念発句」。うん、これでいこう。おしゃれではないけど、それも私らしいということ。でも完成時には変わっていたりして…!!
装丁は本体とカバーが一体化した折り返し表紙で、デザインはうーん、水玉? ストラ

さて、次回5回目がついに最終回。果たして完成の日の目を見るのでしょうか?

※誌面の都合上、掲載は原則お一人さま1作品とさせていただきます。

今回の投稿作品数は、252でした。

※しめきり 2020年11月16日(月)まで



投稿作品

短歌

- 1 施設にて三歳^{みとせ}介護の父看取るバリ
アフリーの改造虚し 塚本節子(茨城県)
- 2 何気ない日々の幸せかみしめて犬
預かりて守りし命 大橋絵代(千葉県)
- 3 圧迫の骨折痛しこの夏はコルセッ
ト巻きリハビリで終え 宇都木安子(東京都)
- 4 母娘して栗林公園曲り池船頭竹竿
ロマンを語る 佐伯セツ子(香川県)
- 5 征きしま、別れし父との畑道リニ
ア通過の赤き杭立つ 土屋喜雄(山梨県)
- 6 母に義母看取りて年はめぐり来し
それぞれ墓前に彼岸花咲く 寒川靖子(香川県)
- 7 少し逃げ猫は再び振り返る近づけ
ばまた距離を保ちて 桑原謙一(群馬県)
- 8 コロナなり一日読書にテレビなり
教養美をば鏡でながめ 阿部澄江(宮城県)
- 9 境内はジージー響させみたちを子
らはあみ持ち大樹みあぐる 大鳥居牧子(東京都)
- 10 コロナ猛暑人の苦しみつゆ知らず
つくつくぼうし秋を知らせる 津山和照(広島県)
- 11 三省堂の地図のカバーの本持ちて
歩いてみたし神田界隈 小島澄子(神奈川県)
- 12 飢ゑに耐へ拓きし土地は四町歩存
ふわれの今が青春 黒澤正行(福島県)
- 13 七十路の歌を求めてつくづくにア
イヌ人の心美し 早坂絃司(北海道)
- 14 密に咲く紫陽花の藍深まるも友と
の出会いはいくしくなりぬ 関原幸子(東京都)
- 15 沢山の希望はあれど優先の順位つ
けがたくまず健康 渡部美代子(山形県)
- 16 開智小と司祭の家をすぎてから小
径をめぐる炎昼とかげ 安部 哲(新潟県)
- 17 捨て扶持の如岩根紋り椿花バッサ
リ切つて視界広がる 濱崎祥子(鹿児島県)
- 18 早生みかんすっぱい顔して食する
も年に一度の初冬の便り 森 由恵(奈良県)
- 19 暑い中音響かせて電車来るみどり
の広野定時に走り 高橋登志子(新潟県)
- 20 写真での父子^{おやこ}対面のみなれといつ
も感じる戦没の父 萩田忠征(東京都)
- 21 肩組みし友みな老いてコロナ籠り
ラインに送る夕昔の花 糸賀緋紹子(茨城県)
- 22 孫子等はぼたぼた梅は好きと云う
たんと仕上げ待つだけの日々 田中豊恵(新潟県)
- 23 総理退くモリカケサクラ拉致もあ
る民と向き合うリーダーを待つ 坂元正憲(東京都)
- 24 ここ半年上京できず夢に見る母・
友如何に声をたよりに 合田浩子(茨城県)
- 25 仏前に供ふる花を育てあぐ数多の
花に自己満足したり 西山知子(岡山県)
- 26 浜町の河岸に夕風立つ見えて宵の
明星東天に輝く 内藤明子(東京都)
- 27 あはれ知る正義先生秋の暮穏かな
影悲しい慕情 五十嵐陸博(新潟県)
- 28 見たと言う働く車ひい孫と絵本の
中に消防車指す 守安幹男(岡山県)
- 29 震災後九年半を過ぎた今知人は未
だ不明のまま 早坂保文(宮城県)
- 30 もの忘れ日毎にふえてコロナ禍と
いいきれぬ身に夕陽まぶしく 岩崎令子(大阪府)
- 31 姉の忌の墓参久しき秋の日の古都
鎌倉は人の溢れて 村山徳英(埼玉県)
- 32 再びののうぜんかずら燃え盛る今
年の秋のあまりの暑さに 豊田智慧子(新潟県)
- 33 保育園へ毎日通る道端でひ孫は素
ばやく秋を見つける 相馬 純(新潟県)
- 34 被爆して七十五年のヒロシマよ生
き残りし父病みて米寿に 高井瑞江(広島県)
- 35 コロナ禍で行き交う人は皆マスク
声をかけられ首を傾げる 冨樫佐與子(新潟県)
- 36 幸せのミニマムでしよう箸二膳 木村洋一(新潟県)
- 37 Jアラートが南無阿弥陀仏唱えさせ 関本 守(新潟県)
- 38 球一つ切れて電気屋さんがない 丸山芳夫(東京都)
- 39 デジタル化いつも私を悩ませる 細川光子(栃木県)
- 40 孤独には戻りたくない夫婦箸 鈴木義雄(福島県)
- 41 コロナ禍や何といつても十両 大場艸庵(長野県)
- 42 コロナ禍に追い打ちをかける暴風雨 久保壽雄(北海道)
- 43 忘れまじ六九五葉月かな 原 崇雄(埼玉県)
- 44 修羅こえて私の顔になりました 小山恵美子(大阪府)
- 45 泥被る度に人間くさくなる 目黒豊光(福島県)
- 46 押し入れにタンスに廊下物ばかり 守屋高雄(岩手県)
- 47 体温を超えて日本新の超々暑 石尾曠師朗(東京都)
- 48 高齢者コロナに酷暑逃げ場なし 奥那於子(大阪府)
- 49 老二人今日で三日目冷そうめん 坪田勝秀(鹿児島県)

川柳

- 34 被爆して七十五年のヒロシマよ生
き残りし父病みて米寿に 高井瑞江(広島県)
- 35 コロナ禍で行き交う人は皆マスク
声をかけられ首を傾げる 冨樫佐與子(新潟県)
- 36 幸せのミニマムでしよう箸二膳 木村洋一(新潟県)
- 37 Jアラートが南無阿弥陀仏唱えさせ 関本 守(新潟県)
- 38 球一つ切れて電気屋さんがない 丸山芳夫(東京都)
- 39 デジタル化いつも私を悩ませる 細川光子(栃木県)
- 40 孤独には戻りたくない夫婦箸 鈴木義雄(福島県)
- 41 コロナ禍や何といつても十両 大場艸庵(長野県)
- 42 コロナ禍に追い打ちをかける暴風雨 久保壽雄(北海道)
- 43 忘れまじ六九五葉月かな 原 崇雄(埼玉県)
- 44 修羅こえて私の顔になりました 小山恵美子(大阪府)
- 45 泥被る度に人間くさくなる 目黒豊光(福島県)
- 46 押し入れにタンスに廊下物ばかり 守屋高雄(岩手県)
- 47 体温を超えて日本新の超々暑 石尾曠師朗(東京都)
- 48 高齢者コロナに酷暑逃げ場なし 奥那於子(大阪府)
- 49 老二人今日で三日目冷そうめん 坪田勝秀(鹿児島県)



- 50 当り外れ今頃やとと解る妻
長谷川庄二郎(千葉県)
- 51 二枚では足りない舌の政治家も
橋本世紀男(東京都)
- 52 先廻り調べてくれるお節介
富永恵美子(神奈川県)
- 53 特攻機海兵卒の閑少尉
青木日出男(群馬県)
- 54 男やめ友あり句あり酒もある
久本にい地(岡山県)
- 55 訪問を避けて避けられウイルス禍
和崎治人(山口県)
- 56 ペンだこのやわらかくなり盤寿かな
中村康浩(福岡県)
- 57 三密をさけるつもりがどまん中
岩崎弘舟(岡山県)
- 58 猛暑です五体ゴロゴロココロナココロ
鏡たか子(山形県)
- 59 いつまでも二位(野党)に甘える枝野氏(さん)
伏見の馬酒(京都府)
- 俳句
- 60 冷房の部屋に横たふ猫二匹
小田ゆかり(新潟県)
- 61 はりつくるやうなるけふの残暑かな
大谷 茂(埼玉県)
- 62 薔薇一輪載せて納体袋過ぐ
富高くにひろ(埼玉県)
- 63 夫逝きし歲月数ふ夜半の秋
堀木和子(大阪府)
- 64 秋高し俳句詠む母九十路なり
黒田康子(大阪府)
- 65 駅ピアノイマジン流る晩夏かな
井原毬子(東京都)
- 66 故郷の山河懐かし走馬灯
平林温州(兵庫県)
- 67 花芒好きに歩いて風聴いて
環 順子(東京都)
- 68 木々の実もはじけて路地に小鳥来る
竹本美美子(新潟県)
- 69 涼風に船頭可愛や口ずさむ
齋藤光雄(新潟県)
- 70 石庭の黙を解くかに秋の蟬
内河邦久(東京都)
- 71 夕風や一輪の薔薇咲きつづく
松嶋光秋(東京都)
- 72 陶枕は父の遺愛よ熱帯夜
佐野和彦(静岡県)
- 73 暮参する母の背丸き令和かな
若月理依子(新潟県)
- 74 遠慮なくだから長居夜の残暑
寺内 信(埼玉県)
- 75 梅雨時や庭師の鋏軽やかに
青木ケン子(埼玉県)
- 76 親兄弟より長命たまひ秋彼岸
田中 昶(鳥取県)
- 77 この暑さ残る暑さを超えてをり
大阿久雅子(埼玉県)
- 78 真夜中は晩夏の気配静寂なり
早乙女文子(埼玉県)
- 79 ふれあいの数だけ増える蝉時雨
塩崎須美子(神奈川県)
- 80 旅に臥し梅雨の重たき時間軸
上村元義(神奈川県)
- 81 雲の帯立ち上りたる夏の富士
清まさじ(静岡県)
- 82 空蟬の均等に割れし背中かな
井上氣海(広島県)
- 83 金木犀香氣漂い湯船まで
西條公雄(埼玉県)
- 84 名も知らぬ鳥来て庭の今朝の秋
小澤円梨(静岡県)
- 85 暑氣払ひむかし話の尽きるまで
関 誠(新潟県)
- 86 菊一輪胸に敬老席にあり
阿部徳夫(宮城県)
- 87 狭庭にも日ごとに増ゆる蜻蛉かな
天野輝子(東京都)
- 88 湧水の江津湖懐かし汀女の忌
古閑智子(神奈川県)
- 89 淋しげに揺れて音なき吾亦紅
高崎登喜子(東京都)
- 90 コロナ禍に帰省出来ない子のメール
山崎吉晴(群馬県)
- 91 大粒の貴石のやうな枇杷の種
溝畑万年青(埼玉県)
- 92 流れ星忘れることが老いの知恵
長峰正晴(千葉県)
- 93 天高し羊筏に羊乗せ
三津木俊幸(千葉県)
- 94 北風はほほをなでるや初孫の
湯浅暉子(石川県)
- 95 コロナ禍や姪は一人で門火たく
檜山柚子香(東京都)
- 96 八十路越え妻と語らう夏の夜
原田治男(東京都)
- 97 ステテコや男冥利夕の風
島村幸重(兵庫県)
- 98 水の星あれが飛び石秋の雲
鶴房万葉(兵庫県)
- 99 三月の十一日の海の音
井上静夫(栃木県)
- 100 鳥声のつらぬく風の新樹かな
高松玲子(埼玉県)
- 101 酔芙蓉きのふもけふも寝てばかり
松尾憲勝(神奈川県)
- 102 スーザホンアメリカ芙蓉響き合う
居原田暹(大阪府)
- 103 リゾートの拔手鮮やか生身魂
中島光江(埼玉県)
- 104 飴色の母の尺差し晩夏かな
若井令子(兵庫県)
- 105 輩と語り合ひたし秋の雲
川嶋法子(東京都)
- 106 さむらひといはれ袴着正しをり
高野ほづ子(千葉県)
- 107 はたと落つ夜の帳や秋の山
鈴木清子(埼玉県)
- 108 今朝開き明日は散る身や白芙蓉
吉村充治(埼玉県)
- 109 かなかなや今は使はぬおどはん
吉里ひとみ(東京都)
- 110 今生の夢は東北紅葉旅
金子範子(高知県)
- 111 幼子の魔法の杖や猫じやらし
すずき笑子(東京都)
- 112 諍いの終らぬうちに大花火
松尾らん(東京都)
- 113 愚痴交す悪友老いぬ茄子の花
岩村 昇(神奈川県)
- 114 線状の七夕兄を引きつれむ
福岡 悟(東京都)
- 115 潮風の吹き抜ける駅盆の月
中田文子(大阪府)
- 116 恙なく畑守り来し半夏生
夏井寛治(新潟県)
- 117 まなうらに夜長の母の針仕事
関山恵一(神奈川県)
- 118 一腑病み温め酒のはかどらず
貝瀬光洋(神奈川県)
- 119 えぞにうの花や鉄路は北へ向く
小島岳青(新潟県)
- 120 正座して玉音聞きし終戦日
米山敬子(神奈川県)

- 121 夢うつつ母甦る風の盆
有坂馨園(福島県)
- 122 茅茸の仁王の門や虫すたく
本庄準也(埼玉県)
- 123 夕月夜昔風呂屋の通り道
堅田秀子(東京都)
- 124 草叢に競ふがごとく虫時雨
杉原明子(静岡県)
- 125 杖を抱き茶店に休む蟬時雨
神 一男(静岡県)
- 126 かなかなの森を歩いて心足る
羽深そら(埼玉県)
- 127 葉裏から雨に角出すかたつむり
片山茂子(埼玉県)
- 128 手のひらに灯す螢火もしかして
大窪美代子(大阪府)
- 129 名前書く夫の下着や夜の長さ
二瓶那枝(埼玉県)
- 130 盆休み御荘の湾の波静か
向井加代子(愛媛県)
- 131 叢の傍を点す水引草
九法活恵(埼玉県)
- 132 今年の出番狂う蟬しぐれ
白松いちろう(千葉県)
- 133 錠剤の一種の増えて秋暑し
湯浅芳郎(岡山県)
- 134 我庭の植木に足らぬ驟雨かな
星 一子(神奈川県)
- 135 路地裏の溝一面に花筏
間森 坦(兵庫県)
- 136 うたた寝し避暑地の天気変りたる
杉村美保子(岩手県)
- 137 客席のないレストラン蝶が舞う
田中こづえ(北海道)
- 138 暮れてなほ命ひしめく蟬時雨
橋本 絢(東京都)
- 139 淡き恋芽生えし丘の吾亦紅
磯部 力(新潟県)
- 140 知る顔の見えぬ故郷柿の秋
小林七重(新潟県)
- 141 夏の宵赤き巨星のアンタレス
津田卿雲(岡山県)
- 142 小型扇風機翁の走る自転車に
矢野紀子(兵庫県)
- 143 梅干してひとよ月夜にさらしけり
津布久信雄(東京都)
- 144 ねじ花の元を正せば氣一本
日名子春実(群馬県)
- 145 梅雨出水野に咲く花のいじらしさ
大塚徳子(埼玉県)
- 146 夕暮れの再配達や甲斐氷菓
齊藤安弘(神奈川県)
- 147 薫風や施設の妻に会ひに行く
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 148 縦横の歴史見つめる星座かな
置鮎勝美(千葉県)
- 149 突然の雷にほえ出す小犬かな
中嶋清子(佐賀県)
- 150 せみのこえふりそそぎきてなつさかり
本田智恵子(東京都)
- 151 昔なりピンク似合うも花摘むも
松島章子(兵庫県)
- 152 粘土から皿に化けるや文化の日
中野勝子(鹿児島県)
- 153 永平寺入門一如蟲の聲
浅田季祐(埼玉県)
- 154 酔芙蓉警察署には長い廊
岩田 信(神奈川県)
- 155 凜として詩を読む小百合原爆忌
渥美 保(滋賀県)
- 156 高高とポニーテールやアマリス
赤池英津子(東京都)
- 157 とろろ汁世に逆らはず詔はず
今井勝子(新潟県)
- 158 気を楽に泣いてこらんよつくつく法師
北野耕兵(千葉県)
- 159 うなずきが呼びだしている柿紅葉
白戸麻奈(東京都)
- 160 涼新た子らの遊び場三番瀬
木村徳夫(東京都)
- 161 さるすべりかひなきものによりすがり
近澤有孝(広島県)
- 162 人の世の苦楽それぞれ吾亦紅
鈴木米征(茨城県)
- 163 コーヒーもホットがよろし今朝の秋
古谷 力(東京都)
- 164 さねかづら図書館通ひ再開す
松坂雪雄(埼玉県)
- 165 峠へと秋の棚田のつづきけり
伊東ハル子(神奈川県)
- 166 秋晴や子らの手描きの万国旗
一瀬正子(埼玉県)
- 167 思い出の八尾も耐える風の盆
中山日出子(大阪府)
- 168 初秋の羽あるもののむくろかな
阿部昭子(埼玉県)
- 169 世はコロナ田舎は強い我が身かな
田村よし(茨城県)
- 170 芋の秋高齢者とは我なりし
いとうしゅう(埼玉県)
- 171 お守りと手作りマスク受く大暑
井田由利子(宮城県)
- 172 流燈は西方の旅舟出かな
中川義彦(新潟県)
- 173 コロナ禍や念には念の盆用意
永田歌子(埼玉県)
- 174 付度なし孫との端居将棋かな
小泉芝雲(千葉県)
- 175 秋の宵葉にむせる猫あやし
清水君江(埼玉県)
- 176 猫じやらし明日またねと夕日影
高垣勝代(大阪府)
- 177 蔵元を左に折れて花芒
渡辺邦彦(新潟県)
- 178 寒竹の子と待つ妻の酢味噌和
椋本望生(大阪府)
- 179 爪の泥いとわず探る茗荷掘り
山里倫子(静岡県)
- 180 萩こぼる廢家の庭を夕陽染め
木村 舳(山形県)
- 181 お参りの帰りの一步涼新
琴寄エイ(埼玉県)
- 182 コロナにも負けず咲ける酔ふよう
岩田栄子(兵庫県)
- 183 酷暑すぎ仙人掌の白き花にいやされ
長谷部喜代子(大阪府)
- 184 素朴なる恋のかけ橋濃りんどう
内藤紀子(埼玉県)
- 185 友初盆供へし花の重たかり
門田善二(兵庫県)
- 186 晩年は独りで暮す冷奴
倉沢ひとみ(静岡県)
- 187 燕去り山家の空のがらんど
松下朱美(静岡県)
- 188 白芙蓉見とどけ戻る朝散歩
中澤寿美(神奈川県)
- 189 天命に素直に生きて実紫
桜井葉子(千葉県)
- 190 コロナ禍にけふも籠り居昼寝かな
増田公代(東京都)
- 191 打ち水や間口小さき駄菓子店
沖 惇子(大阪府)
- 192 草丈のかぎりのありて涼新た
多田文代(東京都)

フォトイック

こちらの写真を見て詠んでいた
できました。



(写真提供：浅田季祐さん)

- 193 秋桜の原に寝ころびたきわたり
井原穂子(東京都)
- 194 コスモスに埋もれのどかに過す日々
齋藤光雄(新潟県)
- 195 コスモスや花と見紛ふ女の子
佐野和彦(静岡県)
- 196 咲き競うコスモスゆれて里の映え
宇都木安子(東京都)
- 197 コスモスや指揮者囲みて大合唱
寺内 侷(埼玉県)
- 198 夏帽子お花畑に溺れさう
大阿久雅子(埼玉県)
- 199 捨てる郷コスモス畑に日が沈む
早乙女文子(埼玉県)
- 200 コスモスやバージロードは夢のゆめ
佐伯セツ子(香川県)
- 201 コスモスの群れに吹かるる女の子
小澤田梨(静岡県)
- 202 コロナ禍で令和の物の怪ついでた
阿部徳夫(宮城県)
- 203 彼方見て此方を見ても秋ざくら
天野輝子(東京都)
- 204 コスモスの迷路で風と遊んでる
小山恵美子(大阪府)
- 205 満開にコロナの憂ひ秋桜
高崎登喜子(東京都)
- 206 髪染めた女立ち入る秋桜
山崎吉晴(群馬県)
- 207 なぜかしらコスモス畑に花がっぱ
阿部澄江(宮城県)
- 208 コスモスに溶け込み案山子役立たず
長峰正晴(千葉県)
- 209 花鳥眺むる住居我が住居
檜山柚子香(東京都)
- 210 休耕田コスモス園に復活す
居原田暹(大阪府)
- 211 コスモスの風に魂遊ばせて
川嶋法子(東京都)
- 212 可憐さは芯の強さよ秋桜
高野ほづ子(千葉県)
- 213 好きやのに相性悪いコスモスで
奥那於子(大阪府)
- 214 コロナなど何処吹く風の花日和
長谷川庄二郎(千葉県)
- 215 秋桜ほとけの為に失敬す
鈴木清子(埼玉県)
- 216 アマビエや秋桜の花見守れり
関原幸子(東京都)
- 217 ベチュニアか将又シオン花音痴
岩村 昇(神奈川県)
- 218 大花野なりはひ難し妻が手が
福岡 悟(東京都)
- 219 コロナとは無縁花の中いつまでも
渡部美代子(山形県)
- 220 コロナなどどこ吹くカゼと花は咲く
橋本世紀男(東京都)
- 221 花野とは或る日討入りありしごと
安部 哲(新潟県)
- 222 コスモスに囲まれ遺影撮った秋
濱崎祥子(鹿児島県)
- 223 コスモスの妖精となる少女かな
本庄準也(埼玉県)
- 224 果てしなく少女も埋まる秋桜
堅田秀子(東京都)
- 225 幼児の花に埋もれていと涼し
神 一男(静岡県)
- 226 花は咲いたがコロナで人は見てくれぬ
青木日出男(群馬県)
- 227 存分に咲くコスモスや遠嶺晴
片山茂子(埼玉県)
- 228 いつしかに杖をたよりの大花野
大窪美代子(大阪府)
- 229 古民家に十割そば喰ひ秋桜
二瓶邦枝(埼玉県)
- 230 かきわけて赤きコスモス好きな色
九法活恵(埼玉県)
- 231 恋は今コスモス色に膨らむよ
有田裕子(北海道)
- 232 コスモスの群れ咲く広野美しい
高橋登志子(新潟県)
- 233 花咲いてコロナも逃げるわが故郷
久本にい地(岡山県)
- 234 廃校の畑に秋桜子らの面
星 一子(神奈川県)
- 235 コスモスのお花畑でかくれんぼ
和崎治人(山口県)
- 236 明け暮のコロナは知らず秋ざくら
日名子春実(群馬県)
- 237 コスモスに囲れしかなわがいのち
齊藤安弘(神奈川県)
- 238 邪魔なしよ風と遊ぶの私達
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 239 炎天下心満開花もまた
岩崎弘舟(岡山県)
- 240 夫逝きて二十五目秋ざくら
糸賀緋紹子(茨城県)
- 241 咲き盛る花の色香のやさしそう
田中豊恵(新潟県)
- 242 秋桜の生駒高原青き空
中野勝子(鹿児島県)
- 243 コスモスや赤い帽子のかくれんぼ
今井勝子(新潟県)
- 244 空澄みてコスモスの花真盛り
鏡たか子(山形県)
- 245 手入れしたコスモス姿の私かな
合田浩子(茨城県)
- 246 コスモスの原産メキシコ過去の旅
守安幹男(岡山県)
- 247 それぞれに風の樂受けあきざくら
阿部昭子(埼玉県)
- 248 青空にコスモス満開住み良い我家
田村よし(茨城県)
- 249 ただひとりコスモス園に取り付かれ
井田由利子(宮城県)
- 250 コスモスのゆれる迷路でかくれんぼ
岩崎令子(大阪府)
- 251 二階より手を振る母や花野風
内藤紀子(埼玉県)
- 252 コスモスの波や頭の泳ぎあし
松下朱美(静岡県)

俳句・川柳募集!!



(写真提供：浅田季祐さん)

上の写真から、自由にイメージし五七五(俳句か川柳)で表現してください。応募はアンケートハガキ投稿欄にて。お待ちしております!



「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんの回答をお寄せ頂きありがとうございました！その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。
※大賞と自句自解コーナーは年1回です。

◎俳句部門

7 白紙には白紙の主張梅雨の雲

望月哲土(東京都)

・明確に意見を言わない人の考えも、何とか汲み取る努力が必要だと戒めの句と解釈 平林義康(兵庫県)・沈黙も返事のひとつ同じ白紙も立派な主張 関山恵一(神奈川県)・少数派の主張も大切にしたい心 湯浅芳郎(岡山県)・何も書かないという主張がどんよりした梅雨の雲にあっている 岩田信(神奈川県)・読みとれない白紙の言葉、主張がとてども気になります 内藤紀子(埼玉県)

14 万緑へ八十路の一步踏み出さむ

橋本 絢(東京都)

・卒寿二年目の私、共に長寿をめざしてがんばろう 齋藤光雄(新潟県)・自分の心境にびったり 川嶋法子(東京都)・八十路の一步 共感を覚えま 高野ほづ子(千葉県)・小生も昨年八十路の一步を踏み出しましたが万緑の季節が生きています。「もう」ではなく「まだ」八十と思えば長く頑張りますよ 吉村充治(埼玉県)・その心意気にエールを送ります 橋本世紀男(東京都)・六十路に入ったばかりも納得 近澤有孝(広島県)・八十路の一步を踏み出そうとしている作者の意気込み、力強さがよく伝わる 井田由利子(宮城県)・本誌111号の茂籠さんのエッセイに刺激されて同じ八十路を迎えてがんばっておられる橋本さんの句に共感 小泉芝雲(千葉県)

69 この夏はだれも乗らない縄電車

若林卓宣(三重県)

・未来駅行き、元気な縄電車もコロナ

や強烈な残暑で走れなかったのは残念。スラっと詠んでいます。意は深い 寺内信(埼玉県)・移動の自粛による觀光が出来ず縄電車まで影響が出た 三津木俊幸(千葉県)・子供の遊びに迄影響したコロナを縄電車でやさしく表現してはすばらしい 清水君江(埼玉県)・コロナ禍の世相がうまく表現されている 椋本望生(大阪府)・子供達の賑やかな声が聞こえない淋しさが伝わる 倉沢ひとみ(静岡県)・今夏は縄電車ばかりか乗物は空いていて妙な風景でした 松下朱美(静岡県)

◎短歌部門

162 青田ゆく機上の夫は生き生きと八十路の米を植えつけて行く

相馬 純(新潟県)

・八十路でも田植機を操作する姿がよく表現されている 夏井寛治(新潟県)・心の中にそよ風が吹く明るい陽の中頑張つて下さい 高橋登志子(新潟県)・空と地のバランスのとおり方が新鮮 置鮎勝美(千葉県)・篤農の高齢ご夫婦の田植に勤しむ田園風景、いつまでもお元気でとエールを送りました 村山徳英(埼玉県)・青田で八十路の夫の働く姿を「生き生き」と表現した。敬意を持って感謝を持って見る作者の姿が目に浮かぶ 高井瑞江(広島県)・八十才すぎても田植機にのって苗を植えるに行く姿生き生きと元気な夫の農家の夫婦愛がにじんでいてとても良い歌 富樫佐與子(新潟県)

163 耳遠くなりゆく吾を呼んでいる夕べ厨の笛吹きケトル

野木宗信(奈良県)

・ヒューヒューとお湯が沸いたことを伝えるケトルの音が読者に伝わってきます 桑原謙一(群馬県)・一人で暮されても淋しくない。笛吹ケトルも仲間にも生かされる人生にカンパイ 糸賀緋紹子(茨城県)・笛吹ケトルの音をこちよく聴きながらお湯をぐらぐら沸しつづけたことかと…同感句です 岩崎令子(大阪府)

◎川柳部門

178 枯れた心へ愛の差し水待っている

小山恵美子(大阪府)

・心がほっこりしました 久保壽雄(北海道)・「愛の差し水」とは良い言葉。今これが特に大切なのかも 目黒豊光(福島県)・私も少し足が不自由になり心まで枯れてしまった時期も有ったので共感 西山知子(岡山県) 181 マスクして目元涼しき美人かな

橋本世紀男(東京都)

・目元涼しい久しぶりにさわやかな言葉 木村洋一(新潟県)・東京の人は余裕がありますね 関本守(新潟県)・マスクしてても美人はわかりますね(心のきれいな人は特に) 杉村美保子(岩手県)・ちよっぴり毒を含む仮面(?) 美人を形容した句「マスクして」に頭をかかえました 中村康浩(福岡県)

◎他にも

11 草引けば小さき命の逃げ惑ふ

大阿久雅子(埼玉県)

28 しやぼん玉いもうとに吹く兄に吹く

高松玲子(埼玉県)

35 七夕の短冊にみる子の本音

長峰正晴(千葉県)

62 心太するりと話題かはしけり

関山恵一(神奈川県)

132 距離をとることも馴れて夏帽子

椋本望生(大阪府)

155 手を振ってDに出かける夫の顔笑

顔と見れば、ホッ。とするとき

157 恙がなく動ける余生に不足なしト

田中豊恵(新潟県)

160 引き揚げの辛酸なめた親友は認知

の世界笑顔振りまく

171 一日の幸せを祈る五本指

夏井寛治(新潟県)

174 逝く人や戻る人無しいところ

守安幹男(岡山県)

182 給付金元を正せば我れの金

木村洋一(新潟県)

189 生きてこそ不満も云えるこの世かな

西條公雄(埼玉県)

193 夏祭金魚掬いの懐かしき

小林七重(新潟県)

219 をさな児の夢を育む玩具かな

大木和男(埼玉県)

231 三才の興味煌めく夏祭

久本にい地(岡山県)

有田裕子(北海道)

◎フォトイック
今回大賞はありませんでした。
※次回もふるってご投稿をお願いいたします！



前回のアンケート
コロナが終息したら、
やりたいことは何ですか？

●旅行

- 海外旅行 黒田康子(大阪府)
- 東京ステーションホテル泊 関本 守(新潟県)
- 沖縄旅行 土屋喜雄(山梨県)
- 北海道へ行きたい 向井加代子(愛媛県)
- 京都奈良への気まま旅 石尾曠師朗(東京都)
- 夫のふるさと長野県を訪ねる 天野輝子(東京都)
- 老いて歩けなくなる前に妻と北欧を旅したい 桑原謙一(群馬県)
- 山梨へ旅行、新潟へ食べ歩き 松尾憲勝(神奈川県)
- 大自然にふれる旅行 内河邦久(東京都)
- アジアの国へぜひ行きたい 豊田智恵子(新潟県)
- ゆっくり一人旅行 宇都木安子(東京都)
- クルーズ船、船旅 大場艸庵(長野県)
- 夫とバスツアーに参加 吉里ひとみ(東京都)
- 妻と小旅行 井上氣海(広島県)
- 日本国内をのんびりと旅 原田治男(東京都)
- 夫婦水入らずの旅行。勿論句帳と歳時記必須で 井上静夫(栃木県)
- 子供がプレゼントしてくれた「旅行券+宿泊券」で旅行 橋本世紀男(東京都)



●友人と会う

- 目的地的人とふれ合いの旅 目黒豊光(福島県)
- 鄙びた温泉でゆっくり湯に浸りたい 夏井寛治(新潟県)
- 日帰りでもいいから旅行したい 杉村美保子(岩手県)
- あてのない雪の日のひとり旅 齊藤安弘(神奈川県)
- マチュピチュ行きツアーを申し込む 赤池英津子(東京都)
- 愛車での秘湯と地方伝承めぐり旅 北野耕兵(千葉県)
- 娘と二人で神戸の街を歩きたい 松坂雪雄(埼玉県)
- 家族での旅行 中川義彦(新潟県)
- 星空の見える高原の宿で今年の出来事をかたりかけたい 岩崎令子(大阪府)
- 仲間達との集い 坂元正憲(東京都)
- 旧友と会いたい 森 由恵(奈良県)
- お友達とお話会 青木ケン子(埼玉県)
- 親しい友人達とカフェでおしゃべり 村山徳英(埼玉県)
- 友人たちとの気兼ねないランチ 小島澄子(神奈川県)
- 会えなかった友人とパーティー 高崎登喜子(東京都)
- 趣味の仲間達と笑顔で再会 塩崎須美子(神奈川県)
- 友に会ってゆっくり呑みたい 稲葉民雄(千葉県)
- 遠くの久しい人々に一人でも多く会いに行きたい 有坂馨園(福島県)

●吟行、句会

- 吟行 溝畑万年青(埼玉県)
- 旅行を兼ねて吟行 関山恵一(神奈川県)
- アルコール飲みながらの俳句談話 本庄準也(埼玉県)
- 句会。皆さんの秀句を聴きたい 長谷川庄二郎(千葉県)
- 句会&懇親会 貝瀬光洋(神奈川県)
- 銀座でのミニ句会 小島岳青(新潟県)
- 句会のあとの一杯 一瀬正子(埼玉県)
- 句会の皆さんと揃っての食事会 日名子春実(群馬県)
- 心配せずに句会に出席 片山茂子(埼玉県)
- 長らく開けなかった句会 清水君江(埼玉県)
- 俳句の会の友達に会いたい 杉原明子(静岡県)
- 毎月七つの句会をもっていてスムーズに会場がとれば良いのですが 浅田季祐(埼玉県)
- 食事 夫婦で食事に 檜山柚子香(東京都)
- 美味しい店で会食 寺内 信(埼玉県)
- 子や孫たちとの会食 岩村 昇(神奈川県)
- 子供達と遊び、会食 青木日出男(群馬県)
- 孫もまじえて会食 中田文子(大阪府)
- 孫や曾孫達との外食 鈴木清子(埼玉県)
- 孫三人と楽しい食事 島村幸重(兵庫県)

- 妻の両親と食事 平林義康(兵庫県)
- 思い切りおしゃべりをして外食を楽しむ 内藤明子(東京都)
- 子供や孫達に主人と私の手料理で楽しんでもらいたい 伊東ハル子(神奈川県)

●家族に会いたい

- 97才の叔母に会いにいききたい 小田ゆかり(新潟県)
- 妹達と逢いたい。一人で行けるうち 渡部美代子(山形県)
- 長女の病院見舞いたい 糸賀緋緗子(茨城県)
- 外国にいる娘家族に会いたい 松尾らん(東京都)
- 後ればせながら孫たちの誕生を祝う 上村元義(神奈川県)
- 施設に居る姉と早く面会する 富永恵美子(神奈川県)
- 東京の大学にいる孫に会いたい 今井勝子(新潟県)
- 北陸のひ孫に会いに行く 守安幹男(岡山県)

●墓参り

- 両親の墓参り 米山敬子(神奈川県)
- 田舎へ帰り墓参り 大鳥居牧子(東京都)
- 一族で墓参り 倉沢ひとみ(静岡県)
- スポーツ ゴルフを再開 椋本望生(大阪府)
- ゴルフを再開 津布久信雄(東京都)
- 太極拳の屋内稽古 荻田忠征(東京都)
- なでしこサッカー応援 安部 哲(新潟県)

- ・ジョギング大会で爽やかな汗を流したい
久保壽雄(北海道)
- ・卓球の再開
西條公雄(埼玉県)
- ・十数年続けてきた体操教室の復活
中山日出子(大阪府)

健康保持に努め五輪待つ

- 田中 昶(鳥取県)
- ・オリンピックの観戦(チケットは購入ですが)
置鮎勝美(千葉県)
- ・区民スポーツセンターに泳ぎに行きたい。痩せたい
高井瑞江(広島県)

音楽を楽しみたい

- ・音楽会
古閑智子(神奈川県)
- ・クラシックの音楽会に行く
関原幸子(東京都)
- ・コンサートで名演を聴きたい
渥美 保(滋賀県)

- ・ステージにて気持ち良く唄いたい
仁藤ひろじ(埼玉県)
- ・合唱で思い切り声を出す
長峰正晴(千葉県)
- ・笑顔でコーラスに参加したい
古谷 力(東京都)

- ・大正琴で慰問の再開
相馬 純(新潟県)

マスクをはずしたい

- ・マスクと決別
阿部徳夫(宮城県)
- ・これまで通りの生活をした
白松いちろう(千葉県)
- ・マスクの要らない生活(85歳でマスク初体験)
黒澤正行(福島県)
- ・マスクなしでサロン活動を心おきなく行う
鈴木米征(茨城県)

お買い物

- ・デパートをゆっくり楽しみたい
齋藤光雄(新潟県)
- ・街へ出て買い物
田中こづえ(北海道)

- ・品定めめの時間をたっぷり楽しみたい
橋本 絢(東京都)
- ・娘と買い物に行きたい
堀木和子(大阪府)

観劇・観劇

- ・観劇
中澤寿美(神奈川県)
- ・芝居を観る
小泉芝雲(千葉県)
- ・東京の歌舞伎座に行き歌舞伎を楽しむ
阿部澄江(宮城県)

カラオケ

- ・カラオケで発散
高野ほづ子(千葉県)
- ・大声で「宇宙戦艦ヤマト」を歌いたい
濱崎祥子(鹿児島県)
- ・思い切り詩吟を唸りカラオケで歌いたい
吉村充治(埼玉県)

ドライブ

- ・あちこちの道の駅をまわりドライブ
田中豊恵(新潟県)
- ・道の駅、ドライブと食いを満喫する
松島章子(兵庫県)

同窓会

- ・同窓会
山崎吉晴(群馬県)
- ・七十七才の同窓会
湯浅芳郎(岡山県)
- ・小学校の同窓会
久本にい地(岡山県)

読書

- ・読書会の再開
中村康浩(福岡県)
- ・図書館ですてきな本をゆっくり読む
早乙女文子(埼玉県)
- ・チェック済の文庫本を買いたい
大阿久雅子(埼玉県)



美術館

- ・美術館めぐり
若井令子(兵庫県)

- ・美術館、博物館へ行きたい
伏見の馬酒(京都府)
- その他
津山和照(広島県)

「瞑想の会」を持ちたい

- ・逝った兄との別れに人吉球磨へ
福岡 悟(東京都)
- ・新潟の喜怒哀楽書房に行きたい
井原毬子(東京都)

人と絆を改めて大事にしたい

- ・いやる会話を取り戻したい
木村 舂(山形県)
- ・行きたかったコーヒー店で美味しい一杯を味わいたい
井田利子(宮城県)

政治を変えたい

- ・政治を変えたい。政治により関心をもちたい。投票の大切さをアピールしていきたい
鶴房 章(兵庫県)
- ・仔犬をドックカフェとドッグランに
大橋絵代(千葉県)
- ・社交ダンスのパーティーで踊りたい
和崎治人(山口県)
- ・手話友との女子会
九法活恵(埼玉県)
- ・旧跡めぐりでのんびりしたい
大谷 茂(埼玉県)
- ・グループで紅葉狩
小澤円梨(静岡県)
- ・グループでの山歩き
木村徳夫(東京都)

今回の回答で多かったのは「旅行」特に「温泉」。新潟屈指の月岡温泉「ホテル清風苑」さんに、ご執筆いただきました。

コロナ対策もお得感も満載な月岡温泉へぜひ！

ホテル清風苑 女将 樋口智子様



暑さ寒さも彼岸まで、少し肌寒く温泉にも適した季節となりました。皆様におかれましては、新しい生活スタイルで過ごしかと存じます。月岡温泉の開湯は大正4年、石油を発掘したところ温泉が湧き出で、以来美肌の湯として大変親しまれております。当館はお客様で今年92年を迎えさせていただきます。

ていただき、現在コロナウイルス感染予防対策として、ガイドラインに沿って各フロア消毒液設置、玄関での検温、飛沫感染防止パネル、マスク着用、手袋用意、エコ箸から割り箸へ、等々取り組んでおります。さらに、「今・得プレミアム商品券付き」プランのご予約で一組につきプレミアム商品券3,000円分、お土産券3,000円分が付く枚数限定の企画がございます(11/30宿泊まで)。この機会にぜひ月岡温泉の街歩き・温泉・お料理をお楽しみください。皆様のお越しをお待ち申し上げます。



ホテル清風苑 mobile版 携帯電話からご予約OK!!



編集室だより

生きてるといろんなことが起こります。一日の中でもあんなこと、こんなこと、ほんといろいろとありますね！ そんな日常に転がる喜怒哀楽を、編集室よりお届けします。



■ おかげさまで、17周年

いつも温かな応援をくださいます。ありがとうございます。おかげさまをもちまして、2020年10月10日で17周年を迎えました。皆さまが育ててくださったこと、心から感謝申し上げます。今後とも、どうぞよろしく願い申し上げます。

■ 初秋のある日…



夕方、大雨が降ってきたかと思うと、雷がどーん！ 停電に見舞われました。写真をよく見ると、ピー

サインのスタッフが(笑) こんな状況もまた楽しんでおります。

■ 弊社ホームページが新しくなります

このたび弊社ホームページをリニューアルすることになりました。10月に新装開店予定！ どうぞお楽しみに。

■ 大滝慶作様『歌集 友に贈る歌』が、新潟市内の書店・洋品店に並びました

ふとしたことから始められた短歌。スクールカウンセラーとしての日々、高齢のお母様とのやりとり、ふるさとに感じること、そして有名人を詠んだ歌…大滝様の独自の視点に心がうごかされます。そして、歌集の題字は大滝様の手によるもの。カリグラフィー用のペンを買い求められ、たくさんお

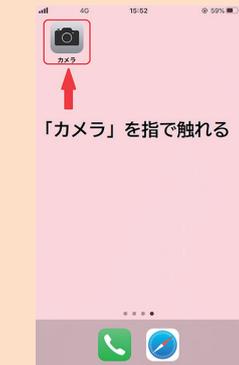
書きくださいました。書店のポップも大滝様の筆。よく見ると似顔絵が描いてあります！

本書は①新潟市中央区の「北書店」さん②新潟市西蒲区巻の「TSUTAYA巻店」さん③新潟市西蒲区巻の洋品店「にいだや巻店」さんでお買い求めいただけます。



QRコードの読みこみ方と、投稿の仕方

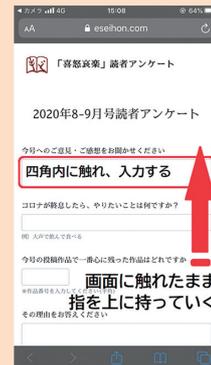
iPhoneの場合



① 初めからiPhoneに搭載されている「カメラ」アプリを探し、カメラマークを指で触れる。



② 二次元バーコードを写真し、上に表示される部分に触れる。



③ 読者アンケートのページに進んだら、質問の下にある四角の枠内を触れ、入力する。画面に触れたまま指を上をスライドさせると、見えていない部分の質問が表示されるようになる。



④ すべて入力・選択し終えたら、「送信する」ボタンに触れ、アンケート投稿完了。

Androidの場合

※Androidは機種により操作が異なります。「喜怒哀楽書房 ブログ」とインターネットで検索し、2020年8月12日のブログ記事から読者アンケートのページにアクセスしていただく方法が確実です。

★ 読者アンケート投稿ページ





坂口安吾から兄・献吉への提言

―敗戦直後の月刊誌創刊・県展開催へ結実

伊豆名 皓美

にいがた文化の記憶館では、現在開催中の企画展「江戸のリアリズム 森蘭齋」に併催して、「坂口安吾と新潟日報」を新潟日报社との共催で開催します。

戦後の文壇で「無頼派」と称された代表的な作家で、新潟市出身の坂口安吾（1906～55年）。彼が敗戦直後の1945年9月、長兄で新潟日报社第2代社長の坂口献吉（1895～1966年）に宛てた手紙の原本が半世紀ぶりに見つかりました。戦後の混乱期に地方紙が果たすべき役割を達言した3通の手紙です。1946年4月に発表した代表作『墮落論』の原型ともいえる内容で、貴重な文学資料です。手紙の内容は冬樹社版、筑摩書房版双方の安吾全集に収録されていますが、その原本は長らく所在がわからなくなっていました。新潟日报社が昨年春に東京の古書店で入手しましたので、新潟日报社の創立記念日（11月1日）に合わせて公開する展示です。

3通の手紙は、いずれもA4判の400字詰め原稿用紙に書かれています。万年筆書きと思われる小さな文字が、マスを無視してびっしりと埋まっています。推敲の跡が少ないことから、別紙に下書きするか、練り上げた原文をもとに、丁寧かつ一気に書き上げたと思われます。

新潟日报社は、太平洋戦争中の1942年11月1日、言論統制を進める「1県1紙」策の下で誕生しました。献吉は統合された地方紙の一つ、新潟新聞社の出身です。献吉は戦後の再出発に際し、最も身近な知識人である弟に意見を求め、安吾も真摯に応えたのでしよう。

安吾は3通目の手紙（45年9月29日付）の中で、地方文化振興に向けた取り組みを求めています。地方の文化振興に対して新聞社がなすべきことを訴え、「新聞社が一県一社となり、地方文化を一身に負うこととなった以上、新聞の発行のみでなく、文化運動の総元締となって働く抱負を忘れてはいかぬでしょう」と結んでいます。この手紙で安吾は雑誌発行を提案し、新潟日报社は翌1月「月刊にひがた」を創刊、同1月～49年4月まで全41冊発行しました。もう一つ特筆すべきは、献吉が敗戦からわずか2か月半後の45年11月3日に、新潟日报社主催で文化祭新潟美術展（後の県展）を実現させたことです。展示目録の冒頭には「私共に課せられた新日本建設は―に文化の建設にあると信じます。（中略）ここに本社は全国に魁で第一回文化祭を計画発表しました」と書かれています。現在の新潟県展は、新人の登龍門でもあり、また作家としての存在を確立する権威ある美術展に成長しました。

新潟の地に花開いた雑誌と美術展という地方文化。それは戦争で疲弊していた県民の心を癒し、明日への希望を育む一助となったことでしょう。

46年4月、安吾は『墮落論』を発表し、流行作家となっていくきます。75年前に書かれた3通の手紙は、安吾が故郷の新聞に向けた熱い思いを伝えてくれます。

【展覧会情報】

新潟日报社所蔵 坂口安吾の手紙公開 「坂口安吾と新潟日報」

（企画展示「江戸のリアリズム 森蘭齋」に併催）

会期：10月6日（火）から11月23日（月・祝）

休館日：月曜日（11月23日は開館）



▲坂口安吾

山形在住でありながら活動的に全国各地を巡り、俳句を通してイタリアのポローニャ市とも交流のある「銀化」同人武田菜美さん。俳句が磨かれる様をつぶさにご覧ください！

俳句添削講座

工房5・7・5

武田菜美

前号で紹介しました芭蕉の発句

五月雨を集めて涼し最上川

芭蕉

に「早し」の間違いでは？と心配なさった方もいらつしたかもしれないがご安心の程を。「おくのほそ道」に同行した曾良の「俳諧書留」によれば、大石田、高野平右門亭にて歌仙を巻いた折には確かに「涼し」でした。しかし紀行文の白眉と称される『おくのほそ道』では

五月雨を集めて早し最上川

に変わっています。この変化の謎を私なりに考えてみました。先ず一栄宅での「涼し」には、川風の通う屋敷に、句座を設けてもてなした一栄への心の底からの感謝が感じられました。その後芭蕉は本合海より舟で最上川を下り羽黒山を目指しますが、この時の体験を『おくのほそ道』に

—水みなぎつて舟あやふし—と記しています。つまり「早し」は危険に身をさらしたことで生れた措辞に他なりません。推敲の過程で「早し」の句が残りましたが、どちらにも芭蕉の五感で体得した思いが息づいている事だけは忘れてはならないと思っております。

鳥交る千代田区千代田一の一

残念な点が二つあります。一点目、季語「鳥交む」の外の十二音を住居表示に費していること。二点目、作者の五感で掬い上げた表現（言葉）が見当りません。この二点のためにはまるで絵葉書を見るような句になってしま

まいました。そこで皇居を訪れた日の風を、気温その他を丁寧な思い出して下さい。そこから一番印象に残った言葉を詠みこんでみましょう。この一言がご自分の俳句の証明となります。

鳥交る皇居の杜の静けさに

今日あることの幸せ飛ぶ蛩

俳句は詩（韻文）ですのでリズムを整えることが大切です。「今日」を「きょう」と読むか「こんにち」と読むかで印象が全く違ってしまいます。読み始める時点で迷いが出てしまうことのないように言葉を吟味します。

更に「今日あることの幸せ」の持つて回った表現が幸せの本質を曖昧にしています。「飛ぶ蛩」と、対局にある「飛べぬ蛩」（命の尽きた蛩）との関係から推察しますと、作者は生きていることの幸せを思いながら飛び回る蛩を見ているようです。

生きてゐることの幸せ蛩狩

春疾風向ひて自分の足で立つ

春疾風に向って立つときちんと助詞を入れて、且つ中八の句を避けて下さい。強風に向って立つ事で困難に立ち向う決意を表現するには、どの様に立つのかを具体的に詠む必要があります。

春荒に向ひて大地踏みしめる



聞きたきは二人の会話だいりびな

内裏雛は男女一対ですので二人の説明は省略しましょう。昼は他人行儀に並んでいる内裏雛ですが家人が寝静まった頃には夫婦の会話を始めるのかもしれないね。そこで昼と夜の顔の違いを然り気なく詠んでみましょう。

夜の更けて何かたらふか内裏雛

パラソルを回し少女に戻りけり

少女の頃のつややかな肌に戻れたら、ほっそりとした姿に戻れたらどんなに嬉しい事かと思えば思う程、決して叶わぬ空しさが残ります。しかし夢と希望に益れた少女時代に戻ったと断定したために大人の女性の心の翳りという大切な部分が欠落してしまいました。

パラソルを回せば心の少女めく

肉体の若さが無理でもせめて心だけはの切なさをこめてみませんか。

紫陽花やもうひと変化喜寿の齡

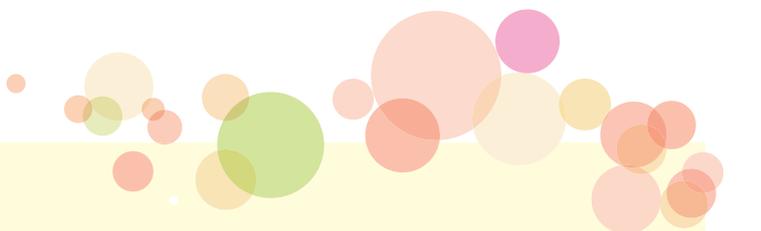
紫陽花は別名「七変化」とも呼ばれます。七十七歳を表す喜寿と「七変化」の七の重複、加えて句中の「もうひと変化」から紫陽花の別称への誘導がレトリック過剰の句にしています。

紫陽花や白よりいでし浅みどり 水巴

のように日に日に色を変える紫陽花の花に心を託して軽やかに詠んでみませんか。

紫陽花や日々を新たに齡積む





情報誌「喜怒哀楽」休刊のお知らせ

いつも「喜怒哀楽」をご愛読いただき、誠にありがとうございます。おかげさまで10月10日に当社は17年を迎えることができました。長らくのご愛顧に、心より御礼申し上げます。同時に、新たな時代に対応しながら前進していかねばと思う節目でもあります。そのようななか、以下、ご案内をさせていただきます。

長らく皆さまにご愛読いただきました当誌「喜怒哀楽」（隔月刊）は、次回の12-1月号を持ちまして休刊させていただきますこととなりました。

全くの無からのスタート、当社を知っていただく手段として誰もが集える「広場」を作ろうと、2001年4月の創刊から当社の成り立ちと軌を一に歩み、今号で通巻112号を数えるに至りました。その間の出来事は、まさに「喜怒哀楽」そのもの。多くの方との出会いと別れがあり、紆余曲折があり、創刊の4ページから少しずつページ数を増やし、部数は増減を繰り返しながらも発行を続けてまいりました。

思い出を語れば切りがありませんが、その間の皆さまからの応援の声、温かなカンパがどれだけ励みになったことでしょう。アンケートの筆跡だけで、どなたかがわかるようにもなりました。皆さま方のお声があったからこそ、続けてこられました。本当にほんとうに、心から感謝しております。ありがとうございます。

今年はコロナウイルスのこともあり、いろいろと見直しを迫られた年でした。時代が変化していることを感じます。大変残念であり、苦渋の決断ではありますが、現スタイルでの「広場」は次号をもって終わり、来年より形を変えて再出発とさせていただきます。

今後の新しい「広場」のスタイルとして、インターネット上の「喜怒哀楽」を考えており、具体的にはご投稿ページの準備しております。その開設までは、メールマガジンという形で、隔月で「喜怒哀楽」ニュースを配信していく予定です。メールマガジンをお読みいただける方は、アンケートハガキまたはメールにて、あなたのメールアドレスをお知らせください。

コミュニケーションの形は時代の変化に対応していきますが、その想いは変わりません。どうぞ、新しい「広場」としての「喜怒哀楽」も一緒に育てていただけましたら幸いです。

今後とも変わらぬお付き合いをよろしくお願い申し上げます。

※メールマガジンをご登録くださる方は odp@eseihon.com にメールをお送りください。

なお、パソコンまたはスマートフォンのメールアドレスでご登録くださいますようお願い申し上げます。



スタッフの一言 Q. コロナが終息したら、やりたいことは何ですか？

木戸 敦子



小春日和のなかマスクをせずに家を出て、駅ビルで目に付いた本と缶ビールとおつまみを鞆に入れふらりと電車に乗ってどこまでも。ポイントはマスク無しと気兼ねなくふらり！

古川 久美子



基本、家が好きなのでアレなのですが。誰に気兼ねすることなく、県境を越えたいですね。毎週●●に行くわ～なんて日が懐かしい。

菅 真理子



おしゃべりを楽しみつつ、ゆっくりと食事ができたらしいなあ…。会社のみんなで飲み会もしたいなあ。行ってみたいところや再訪したいところも、ちょっと未来の楽しみですね。

松野 沙依



マスクをはずし、可愛い色のリップをつけて、東京へ遊びに行きたい！東京でしか上映していないマイナー映画を観たり、中古ゲーム屋巡りをしたり…やりたいこと尽くめです。

山田 民子



今年キャンセルになった北海道、東京、福岡のライブコンサートに行きたい。あとは、終電を気にする飲み会をしたいです。

木伏 美恵



家族旅行！おでかけ大好きなので我慢の限界。飛行機に乗って遠くへ行きたい。この期間中にお金貯めて行けるようになったら…と思っていたのに、お金は貯まっていない。

上村 眞智子



ずっと以前からぼんやり計画していた貧乏旅行、新潟→広島→愛媛→高知を巡る名付けて『坂上の龍馬旅』お金を使わずのんびり自由気ままな旅をしたい。

石山 由希子



病院でもラーメン屋さんでも消毒やディスタンスに気を遣っていて、担当の方々は大変。個人的にはご近所にお金を使わずのんびり自由気ままな旅をしたい。

吉田 瞳



大自然でのびのびできる地へ家族旅行に行きたい。あと妹の結婚式。早く盛大に祝ってあげたい。そしておにてマスクなしで堂々とゴミ出しをしたいです。

佐々木 祥子



会いたい人たちに直接会う事とプチ旅行に出かけて美味しいものや心躍る景色を見に行きたいです。

腹

黒岩徳将

胸に続いて今号は「腹」。腹には生命力を感じさせる句が多いような気がします。頭、首、肩、胸、腹ときて次回最後のエッセイの部位は、順当に足あたりで腹に落ちるのか、意外な部位で腹を抱えるのか、著者の腹を探りたいところです。お楽しみに！

外出を控える風潮の高まる昨今においては、運動不足によりお腹が出ていないか心配になる人は少なくないはずである。前回紹介した「胸」が心やロマンティズムと親和性が高いのに対し、「腹」はより物質的・リアリティの表出に傾くのではというイメージが筆者にはある。「腹芸」「腹に一物」などといった言葉もあるが、腹をネガティブな感情や小賢しさを含み持つ心理の比喩として用いようとしても、客観的表現で心情を間接的に表現する種の俳句とはまずまず相性が悪そうである。腹が直接的に詠まれた中で一番に挙げるのは次の句であろう。

曼珠沙華どれも腹出し秩父の子

金子兜太

季語・土地の名・人間……すべての語に生命力が漲っている。曼珠沙華↓腹↓秩父の子と視点は上昇して、土着の民のエネルギーが世界へ放出されている。「腹から声を出せ」という慣用的表現は、下から上へせりあがるようなイメージがある。胸までは体の上半分だが、腹からは下部であるということ強く意識して読みを進めても問題はなさそうだ。

身体の扱いとしては前回紹介した「甲板に寝て銀漢を胸の上 奈良文夫」に近いが、兜太の方が身体部位の押し出しが強い。「子」の形容として「みな」ではなく、「どれも」と人間以外の動物に使うような表現を用いていることから、野生味も感じられる。

腹の上に猫のせてる二日かな

行方克巳

寒禽の胸から腹へ風の渦

佐々木六戈

あたたかさやつめたさを引き受けてくれるのは腹であるということが示された二句。心臓や胸で感じるものとはまた異なり、動物の身体の芯から全身へ巡るような温度感覚が優しさや厳しさを誘う。視点を変えて人間以外の腹の句はどうかと考えてみたところ、存在感が強く、情感のありどころを解釈しづらい面白い句を思い出した。

初夢のいきなり太き蝶の腹

宇佐美魚目

一富士二鷹三茄子といった通念・常識はこの句の前にあえなく打ち砕かれる。頭から読み下していくと、「いきなり」で何が来るのかと思へば、「太き」で「腹か？」と思わせる。その後に来るのがまさかの「蝶」、そしてまさかの「腹」である。生物学者や理科好きの人以外で蝶の羽根でなく腹に注目するのは一部の俳人ぐらいではなからうか。この句の「蝶の腹」について、その様態を知らなければ具体的・映像的な形を思い描くことはできない。「？」マークを頭に浮かべて、なんとなくの蝶の腹を想像し、次に蝶の腹を画像検索したり昆虫展で確認したりして、そのやや不気味な像を頭の中に思う。そうして再度この句を季語「初夢」とともに鑑賞する。奇怪な夢で目出度いのかどうかわからない。蝶なのに忘れられないのは「腹」である。力・情感・不思議さを備えた「腹」の中には可能性がまだ秘められている。

三日目を掠めて指の腹紅し

徳将

2020.10-11. vol.112 (2020年10月10日発行/隔月発行)

●発行・印刷/株式会社ミュージズ・コーポレーション

〒950-0801 新潟市東区津島屋7-29

TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550

喜怒哀楽書房

株式会社ミュージズ・コーポレーション

0120-819-395 Facebookもチェック

e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com

郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社ミュージズ・コーポレーション

編集後記

会社の玄関脇の、ちょっと隠れた一見気づかない場所に桐の木が生えてきた。初夏のことだ。あつという間に大木になるので早めに伐採を...ということで「すまないねえ」と思いながら既に3回ほど切った。するとどうだろう、上に乗ると伸びていた幹と葉が、今は横に広がりながら大きくなっている。物言わぬ桐だが、生き続けるための試行錯誤、懸命な生き様を見た気がした。会社の最大の目的は、永続的に事業を行い利益をあげ社会的責任を果たすこと。桐もまた師なり。切つてごめんね、そしてありがとう。(木戸敦子)